

流域治水の自分事化について

「流域治水」のより一層の推進のために

背景

■水災害を自分事化し、総力を挙げて流域治水に取り組む必要性

・気候変動の影響による洪水流量の増加に対する水災害リスクは河川区域の対策だけでは対応できない。流域治水のより一層の推進のためには、行政機関のみならず、民間企業や地域住民の創意工夫による多様な取組をすることが必要。



議論

■「水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会」の設置

・住民や企業等が自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、さらに視野を広げ、流域全体の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させていくことが重要。

施策

■「流域治水の自分事化」としてフォローアップ・多様な取組の推進

・多くの関係者を巻き込みながら、創意工夫による独自性の高い、多様な取組を積極的に推進していくために、各種普及施策の推進状況やその効果等についてフォローアップを行い、関係者で共有の上、取組内容について流域治水プロジェクトに反映していく。



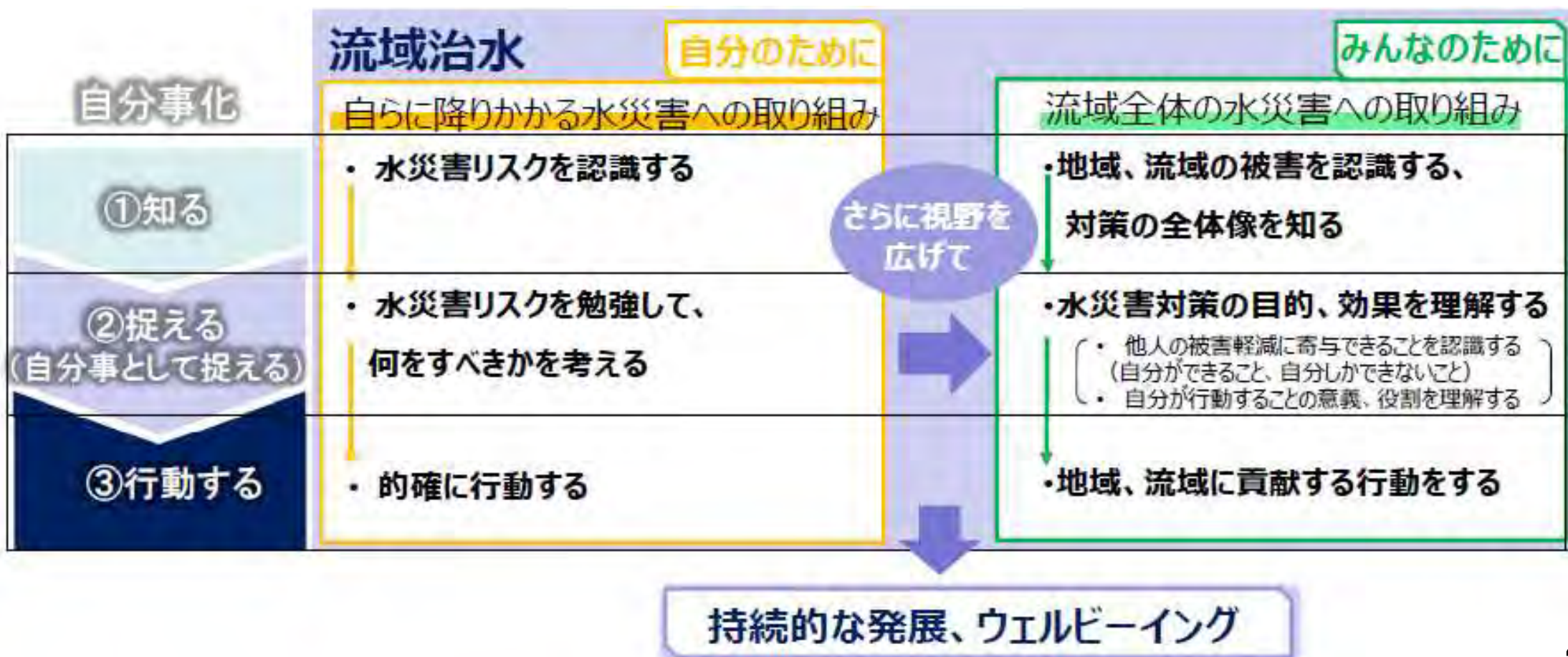
■水災害について「知る」と「行動」することにはギャップが存在している。
これを埋めるためには、自分事として捉え主体的に行動することが必要であり、
各自が行動の可能性や有効性を考える素材や機会を提供する施策が必要。



流域治水を推進する上で、自分事と捉えることが課題

■自らに降りかかる水災害への取り組みから、さらに視野を広げて、流域全体の水災害への取り組みへと自らの行動を深化させる。

→流域治水に取り組む主体を増やす。



「流域治水の自分事化」の取組内容

#1 取組計画（事務局作成）

- ・「流域治水の自分事化」としてこれから取り組んでいくための計画。
- ・大規模氾濫減災協議会の取組等を参考に作成。



#2 ロードマップ（事務局作成）

- ・「流域治水の自分事化」の取組の年間ロードマップ。

令和6年度：自分事化に向けた取組のロードマップ

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	水災害、流域治水の広報 地域・個人・企業・団体	広報誌で水害・土砂災害、避難、避難の機会		
② 自分事と捉えることを促す	① 連携活動 地域・個人	メディアと連携を促す 小学校の社会科見学の機会		
③ 行動を誘発する	① リスク情報等の提供 地域・個人・企業・団体	浸水想定 避難場所 危険管理型水位計・監視カメラ		
	② 教育活動 地域・個人	防災訓練、研修会 小中学校における 防災教育、出前授業		
	③ 訓練活動 地域・個人	住民参加型の避難訓練 ハザードマップの周知および住		
	④ 計画策定 地域・個人・企業・団体	重要施設等危険箇所の避難確保計画 地下空間・地区タイムラインの		
④ 水災害対策の支援 個人		市民への土の の事前配布		
⑤ 水防活動の支援 地域・個人・企業・団体				水防活動拠点整備

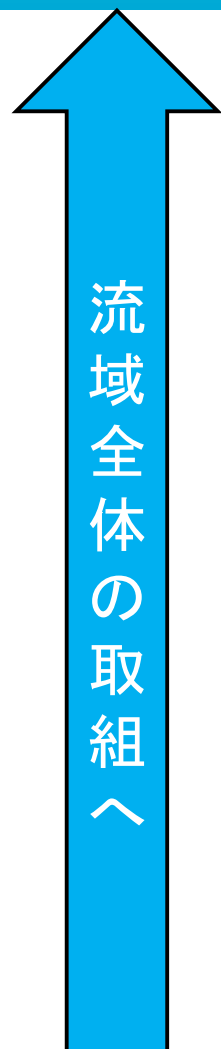


#3 フォローアップ（各構成機関毎作成）

- ・各構成機関毎の取組状況の確認・共有。

#1～3の3つでフォローアップを行っていき
流域治水プロジェクトへ反映していく

「流域治水の自分事化」の取組内容



流域治水に取り組む主体を増やす

課題である「自分事と捉え主体的に行動すること」「自らの行動を深化させること」を達成するために 6
足りない施策・施策の連動性について見ることができ、より有効な対策ができる。